

## 新理事長に就任して

眞野喜洋

この度は、はからずも恩田昌彦理事長の後任として伝統ある本学会理事長を仰せつかりました。学会は大変厳しい環境におかれておりますが、少しでも会員の皆様のお役に立てることができるよう微力ながら誠心誠意努力させて戴きたく存じます。

本年は学会総会が40周年記念大会を迎えるということと、その兼ね合いからも、第39回総会シンポジウムにおきましても触れさせていただきましたが、HBO治療の専門医認定制度を軌道に乗せる事業展開を進めることが可能かどうかについて検討させて戴き、是非とも会員の皆様の要望に応えられないかと考えております。この制度は会員の永年の夢でもあり、学会を活性化させる上での賦活剤でもあろうかと存じます。



また、今日の医療経済は厳しく、HBO治療に伴う診療保険点数も大変厳しい状況です。しかしながら、HBOが併用されることで、「全体の医療費の軽減化が計れる」、「治療期間が短縮できる」、「患者の苦痛が軽減できる」という3方面からの治療効果を証明できるEBMを学会として公表することは、今後、診療報酬見直しの必要条件であると共に、さらには学会が専門医認定制度を発足させる上での十分な条件になるのではないかと考えております。従いまして、学会の専門医認定制度を軌道にのせるためには、会員一人一人の診療研究における成果を是非学会総会で発表し合うこと、ならびにそれをEBMたる論文にして掲載して戴くことに尽きると思われます。このようなお互いの持ち分を分配し合うことによるのみ学会の活性化が計られるものと信じております。

今後、学会活動を活性化させる上でHBO治療上の安全確保は絶対条件ですが、学会に会員登録されていないHBO治療医師、ならびにその治療施設も学会に所属せず、高気圧酸素治療安全協会にも登録されていないようなケースも散見され、安全基準の浸透、安全に係わる情報の伝達がいまだに十分徹底していないのが実情とも言えます。このような状況を打破し、HBOに関わるすべての医療関係者ならびに機関に学会の安全啓蒙が徹底できるような組織造りに向けて、学会組織を見直すことも必要であり、その時期にきているのではないかと思われます。

本学会もHBO適応疾患の見直し、保険点数算出方法の見直し、等の基本的問題の早急な解決を迫られておりますので、これらも踏まえた上で会員の方々のお知恵を結集させて戴き、前向き思考の学会を目指したく存じます。そのためにも皆様におかれましては旧倍のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2005年3月吉日